

2018

4

vol.536

ゆうあい

あなたがいて、わたし、がある。

特集

「大場茂俊賞受賞論文」

昭和63年1月18日第三種郵便物認可  
4月号/平成30年4月1日発行

<http://www.yuai.jp>



社会福祉法人 侑愛会  
学校法人 ゆうあい学園

[www.yuai.jp](http://www.yuai.jp)

学校法人 ゆうあい学園							社会福祉法人 侑愛会								
幹事	幹事	理事	理事	理事	理事	常務理事	幹事	幹事	理事	理事	理事	理事	常務理事	理事長	
山村 健司	西村 裕幸	石戸谷 浩二	木村 幹雄	斎藤 みち子	竹下 敏雄	大場 靖子	大場 公孝	山村 健司	西村 裕幸	祐川 暢生	中野 伊知郎	佐直 栄一	竹下 敏雄	大場 靖子	大場 公孝

## 役員紹介



## 施設長紹介

施設長の皆さんの胸に貼られた青いワッペンは、世界自閉症啓発デー in Hakodate のロゴステッカーです。



# 2018 平成30 年度にむけて

社会福祉法人侑愛会  
学校法人ゆうあい学園  
理事長 大場 公孝



平成29年度は、法人創立65周年、ゆうあい開設50周年の記念すべき一年でした。多くの職員の協力によって節目の諸行事を滞りなく行うことができました。それを弾みに、これから50年にむかって歩みを始めることができたと思っています。「おしまコロニー」から「ゆうあい」へ私たちの呼称も改め、新しいロゴマークの採用やホームページのリニューアルを含めて、私たちの新しいイメージをこれから精力的に発信できると期待しています。50周年の一貫として行われている「自閉症支援のためのワークショップ」は、3年目の最後の年をむかえます。来年以降を見据えたものとしたいと思います。

さて、平成30年度は報酬改定の年です。新しく設けられた加算の要件をクリアして受給が可能かどうか等々を確認していく必要があります。また、新しいサービス類型(共生型サービス、自立生活援助など)についても研究、検討が求められます。

平成30年度は法人第3期5ヶ年運営計画の最終年度にあたります。  
4つの重点課題についての計画を以下に示します。

## 【地域生活・日中活動の充実】

29年度はサポートかわつきが管轄するグループホーム「やすらぎ荘」を改築移転しました。30年度には、今後の石川地区的グループホームの新規開設、函館青年寮通所部の建て替え、日中活動事業所の再編も念頭におきながら、計画を立案することになります。

## 【高齢者対策】

すでに構築された利用者データベースをもとに、入所施設の高齢化に対応する手立てを講じるとともに、地域生活を送る高齢の方々に適した日中活動を模索し、新しい日中活動事業所の開設を検討していきます。居住の場についても、重度者対応のために新設された「日中サービス支援型グループホーム」の研究・検討を進めます。

## 【障がいの重い方々への支援】

29年度、国庫補助を受けられず、断念せざるをえなかったねお・はろう本舎の改築をぜひ実現したいと思います。

## 【乳幼児の支援】

七重浜保育園と浜分保育園がすでに「幼保連携認定こども園」に移行しました。地域の総合的な子育て支援の拠点として、さらに保育・教育の内容充実に力を入れていきます。また30年度は、つくしんぼ学級を増築します。31年度おしま地域療育センターで行ってきた母子通園事業「おひさま」をそちらに移して実施するためです。これまで以上に地域の療育ニーズに応えることができるようになるはずです。

平成30年度は、第3期5ヶ年運営計画の成果の評価と残された課題の把握を通して、31年度からはじまる次期運営計画を構想する1年です。それに合わせて法人の指針を大幅に書きかえる作業も予定しています。指針検討特別委員会が組織され、この作業を担います。

これまでの50年を踏まえて、この先の青写真を描く端緒の1年にしたいと考えていますので、皆さまのご理解、ご支援をお願い致します。

平成30年度もよろしくお願い申し上げます

おしま学園	侑愛荘
星が丘寮	園長 細谷智彦
園長 中野伊知郎	
ねお・はろう	
園長 夏目智志	
新生園	
園長 和島武宏	
明生園	
サポートかわつき	
園長 佐直栄一	
ワークショップまるやま荘	
園長 紀谷智彦	

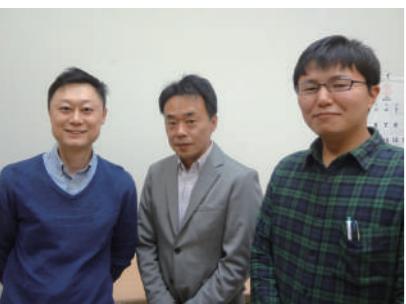
園長 細谷智彦	クッキーハウス
園長 細谷智彦	サポートカーム
園長 細谷智彦	相談4機関
園長 細谷智彦	園長 杉本聖子
園長 細谷智彦	浜分子ども園
園長 細谷智彦	園長 佐々木若子
園長 細谷智彦	ゆうあい会石川診療所
園長 細谷智彦	所長 高橋和俊
園長 細谷智彦	ゆうあい会診療所
園長 細谷智彦	あおいそら
園長 細谷智彦	所長 大場公孝
園長 紆谷智彦	ゆうあい幼稚園
園長 紆谷智彦	園長 大場靖子



新しい場所が苦手で警戒心が強いKくんが、入園後クラスに入れるようになるまでの実践とご家族との連携についての報告です。好きなものや馴染みのあるものをクラス内に用意する、いつでも中を見ることができる専用の部屋を作るなどその都度、アセスメントしながら支援を展開しました。その中で特性を職員間で共通理解し、仮説を立て支援を組み立て実行検証することの大切さ、客観的な記録の有効性、スマールステップの重要性、興味関心を最大限に生かすこと、そしてご家族の思いに寄り添い、連携して支援を進めることの大切さを改めて学ぶ機会になりました。この春、Kくんは新1年生です。スケジュールやコミュニケーション、わかることやできることを自信に変え、新しい場所で少しでも安心してスタートが切ることを心から応援しています。またKくんとご家族との出会いに感謝し、仲間と共に学んだことをこれから支援にいかしていきたいと思います。

奨励賞  
つくしんば学級  
林 美樹

子どもの特性に合わせた支援  
重度の知的障がいを伴う自閉症Kくんの実例を通して



効であったのか考察し、重度知的障がいの方の就労支援のあり方にについてまとめました。



おしま学園の役割と専門性について  
一児童期における支援の質の向上についての一考察  
コンサルテーションを受けた職員が感じたこと

おしま学園  
福山 康隆

努力賞

ワークセンターほくと  
柴田 祐樹  
大石 良平  
前田 麻友美  
函館青年寮通所部  
住谷 悠介

自閉症スペクトラムの成人へのPECS指導に関する一事例

おしま学園の役割と専門性について  
一児童期における支援の質の向上についての一考察  
コンサルテーションを受けた職員が感じたこと

奨励賞  
ワークセンターほくと  
柴田 祐樹、山田 浩史、小黒 康廣

重度知的障害を伴う自閉症スペクトラム者就労に関する一考察  
生活介護事業所におけるTTAPの活用を通して

奨励賞  
ゆうあい会石川診療所  
田縁 友博

当診療所で実施している、よちよち相談室の活動報告

ご家族の方が子どもの発達の遅れを感じた場合、専門の医療機関への受診に対する迷いや抵抗がある場合も多く、そのことが原因となり必要な支援が適切な時期に受けられないケースも散見されています。そこでゆうあい会石川診療所では医療機関へのハードルを下げながら子育て支援や早期療育へ繋げることを目指し、運動発達に関して心配なお子さんを対象に無料の個別相談「よちよち相談室」を開設しています。今回は開設の経緯や相談の流れ、これまでの利用状況について報告させていただきました。相談は必要に応じて受診・セラピーの開始も視野に入れながら行いますが、受診された方に関しては運動面に加えて知的面・言語面の遅れが見られる場合もあり、早期のOT・ST介入により多角的な支援を行うことができました。今後はお子さんに携わる方々へ乳幼児期の運動発達の重要性を啓発することも、よりご家族に身近な相談機関を目指していきたいと思います。



おしま学園の役割と専門性について  
一児童期における支援の質の向上についての一考察  
コンサルテーションを受けた職員が感じたこと

おしま学園  
福山 康隆

努力賞

ワークセンターほくと  
柴田 祐樹  
大石 良平  
前田 麻友美  
函館青年寮通所部  
住谷 悠介

おしま学園の役割と専門性について  
一児童期における支援の質の向上についての一考察  
コンサルテーションを受けた職員が感じたこと

努力賞  
サポートかわつき  
中尾 幸治

サポートかわつきの取り組み  
地域生活での支援について

努力賞  
サポートかわつき  
中尾 幸治

サポートかわつきの取り組み  
地域生活での支援について



高齢期の知的障害者支援施設である侑愛荘は現在75名の利用者がおり、利用者の平均年齢は70歳を超えています。全国的にも知的障がい者の高齢化が問題になっています。利用者のADLの低下、重度化に伴い日常的に介護が必要になっています。今回発表させて頂いた【看取りケア】とは、侑愛荘にとって長年の課題であり、『いつか看取りができる施設を』と取り組んできました。障がい特性ゆえ身体に不調があつても上手く表現できることは困難でした。

侑愛荘が利用者の終の棲家として、これからも利用者の思いに応えられるよう、環境の整備、支援力の向上をもつて寄り添っていきたいと思います。この度は、大場茂俊賞を受賞させていただきありがとうございました。



## 強度行動障害を有するASD成人男性の不適切行動に対するアプローチ

不適切な場面で執拗に繰り返される  
不必要的要求行動に対する支援

優秀賞  
ねお・はろう  
中村 洸

# 大場茂俊賞受賞論文

大場茂俊賞受賞論文は、平成12年に創設されました。

毎年、職員個人やチームによる優れた論文や実践報告などについて表彰しています。

平成29年度は、優秀賞が2編、奨励賞が3編、努力賞が3編受賞しました。

各賞は、記載のとおりです。おめでとうございます。

今回の特集では、優秀賞と奨励賞の要旨をご紹介いたします。



＼ 平成29年度 /

特集

本実践では、強度行動障害を有するASD成年男性の「不適切な場面で執拗に繰り返される不要な要求行動」に対して、環境の整備と代替行動の指導に着目した支援の有効性を検討し、行動改善とQOLの向上を目指した取組みを行いました。行動分析的な視点から支援を考え、行動が生じている環境や行動を構造化を行い、適切な行動を指導・強化、加えて支援者による異なる対応が要求行動を強化している要因であると考え、支援の方向性や対応方法をチームで統一し、一貫した支援を行いました。その結果、不適切な場面での不要な要求行動は約70%減少し、新たに日課として設けられた「関りの時間」という特定の場面で要求することができるようになりました。

また、不適切な場面での要求行動が減少することで、要求行動の延長線上にあつた他害行為も減少し、本来の生活リズムで日課を進めることができるようになりました。環境の整備と代替行動の指導は不適切行動を改善する有効な支援であり、不適切行動の改善は強度行動障害を有する方のQOLの向上に直結する」とが示唆されたものと感じます。



社会福祉法人侑愛会  
学校法人ゆうあい学園  
[www.yuai.jp](http://www.yuai.jp)